

令和7年9月25日

令和7年第3回神奈川県議会定例会

環境農政常任委員会報告資料

環 境 農 政 局

目 次

I	神奈川県食品ロス削減推進計画の改定素案について……………	1
II	神奈川県立花と緑のふれあいセンター条例の一部改正素案について	5
III	「GREEN×EXPO 2027」に向けた取組について……………	7

I 神奈川県食品ロス削減推進計画の改定素案について

令和4年3月に策定した「神奈川県食品ロス削減推進計画（以下「計画」という。）」について、国が、令和7年3月に食品ロス削減推進法（以下「法」という。）に基づく食品ロス削減の推進に関する基本方針（以下「基本方針」という。）を変更したことから、改定に取り組んでいる。

このたび、計画の改定素案を作成したので、報告する。

1 現行計画の概要等

(1) 背景

- 国は、消費者、事業者、関係団体及び県・市町村等の各主体が連携し、国民運動として食品ロス削減を推進するため、令和2年3月に基本方針を策定し、食品ロス発生量を2030年度までに、2000年度比で半減させる削減目標を設定した。
- 都道府県は、国の基本方針を踏まえて食品ロス削減推進計画を定めるよう努めることとされていることから、本県は令和4年3月に計画を策定した。

(2) 総論

- 県内における食品ロスの削減を総合的かつ計画的に推進するため、法に基づく都道府県食品ロス削減推進計画として策定する。
- 計画期間は、2022年度から2030年度までの9年間とし、神奈川県循環型社会づくり計画等、関係する県計画との調和を図ることとする。

(3) 現状と課題

- 2022年度の県内における食品ロスの発生量は36.1万トンであった。その内訳は家庭系が17.4万トン、事業系が18.7万トンであり、家庭系は食べ残し由来が多く、事業系は食品製造業由来が多い状況であった。
- 削減目標の達成状況は、家庭系については1人1日当たり2000年度比で2030年度までに半減という目標に対し、あと6%程度の削減が必要である。事業系については2000年度比で2030年度までに半減という目標を既に達成している。
- 課題としては、全国と比較して発生割合が高い家庭や飲食店における食べ残しの削減等が挙げられる。

2 改定の背景

- 国は、国内の食品ロス量が着実に減少し、特に事業系食品ロスについては、既に半減目標を達成しているなどの状況から、令和7年3月に基本方針を変更し、事業系食品ロスに関する削減目標の変更などを行った。
- 県は、国の基本方針の変更などを踏まえ、本県計画を改定することとした。

3 改定のポイント

- 国の基本方針（第2次基本方針）を踏まえ、事業系食品ロスの削減目標を2000年度比で2030年度までに半減から60%削減に引き上げる。
- 飲食店における食べ残し持ち帰りの促進やデジタル技術の活用も含めた食品寄付(フードドライブ)の推進など、第2次基本方針に新たに盛り込まれた施策について、本県計画の推進施策に位置付ける。

4 計画改定素案の概要

(1) 計画の目指す姿と施策の方向性

- 県民が食べ物を無駄にしない意識を持ち、食品ロス削減を「自分事」として捉え、取組を実践する社会の実現を目指す。
- 施策の方向性として、県民が「食」への感謝の気持ちや環境への高い意識を持ち、食品ロス削減に向けた行動の変革が広がるよう、各主体が連携し、県民運動として食品ロス削減を推進する。

(2) 食品ロスの削減目標

県内の食品ロスの現状や国の削減目標を踏まえ、家庭系食品ロスの1人1日当たりの発生量を2000年度比で2030年度までに半減、事業系食品ロスの発生量を2000年度比で2030年度までに60%削減させる目標とする。

(3) 推進施策

- 国の基本方針及び本県の特長や食品ロスの状況などを踏まえ、県民への意識啓発などの取組のほか、外食産業から発生する食品ロスの削減や食品関連事業者から出る規格外品等の有効活用に関する取組などを推進する。
- 主な施策・取組は次のとおり。(下線は今回の改定で追加・強化した施策・取組)

分野	施策・取組
教育及び学習の振興・普及啓発等	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシや広報誌等を活用した普及啓発 ・学校や環境学習リーダー会に対する講義等 ・学校の教科等を通じた理解促進
食品関連事業者等の取組に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ・商慣習見直し等の推進、食べきり、てまえどり、<u>食べ残しの持ち帰り</u>、3010運動などの促進 ・規格外や未利用の農林水産物の活用促進
未利用食品を提供するための活動の支援等	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>フードバンク、フードドライブ活動の推進</u> <u>(デジタル技術の活用含む)</u> ・災害時用備蓄食料の有効活用

(4) 各主体の役割

各主体が役割を理解し、食品ロス削減に向けた具体的な行動に移す。

ア 消費者

食品ロスの状況と削減の必要性を理解し、自ら行動するとともに、事業者や県・市町村の取組に協力する。

イ 事業者

食品ロスの状況と削減の必要性を理解し、自らの取組を消費者に情報提供する。発生する食品ロスの削減に努める。

ウ 関係団体

食品ロス削減に関する普及啓発等を行う。

エ 県・市町村

県及び市町村は、食品ロス削減に関する普及啓発等を行うとともに、災害時用備蓄食料の有効活用に努める。また、市町村は、国の基本方針及び県計画を踏まえ、市町村食品ロス削減推進計画の策定又は変更
に努め、県は市町村を支援する。

(5) 計画の推進

庁内会議を活用し、食品ロスの現状や関係部局の取組等を情報交換、今後の施策等の検討を行うとともに、適宜、消費者、事業者、関係団体及び市町村との意見交換を行う。

また、計画に記載した施策を着実に推進するため、毎年度、目標の達成状況及び施策の実施状況を把握し、計画の進行管理を行う。

5 今後のスケジュール（予定）

- 令和7年10月 県民意見募集、市町村等への意見照会
- 12月 環境審議会で改定案を審議
- 令和8年2月 環境農政常任委員会へ改定案を報告
- 3月 計画改定

《参考資料1》

神奈川県食品ロス削減推進計画改定素案（概要）

《参考資料2》

神奈川県食品ロス削減推進計画改定素案

II 神奈川県立花と緑のふれあいセンター条例の一部改正素案について

県立花と緑のふれあいセンター（花菜ガーデン）の現状については、令和7年第2回定例会の当常任委員会において、令和3年度以降、ほぼ計画どおりの年間20万人以上の入園者数を確保できているが、利用料金等の収入実績額が見込額を下回り、収支状況は赤字となっていることを報告した。

このたび、経営改善に向けた対策として、神奈川県立花と緑のふれあいセンター条例で定める利用料金の上限額を見直す改正素案を作成したので報告する。

1 改正の理由

花菜ガーデンの入園料金については、料金変動制を導入した平成27年度以降に、施設の魅力向上や物価上昇などを背景とした料金の変更を実施してきた。

現在の事業者との契約期間が残り5年を切る中、次期事業者の募集も見据え、健全な財務状況での施設運営を可能とするためには、利用料金等収入を増やす必要があるが、現在のピークシーズン（5月）における大人の入園料金（1,000円）は現行条例で定める上限額（1,010円）とほぼ等しく、さらに増額する場合には、上限額を引き上げるための条例改正が必要である。

2 条例の一部改正素案

利用料金の上限額を定めた別表（第12条関係）を、次のとおり改める。

(1) 入園料金

区分	利用料金の 上限額 (改正後)	利用料金の 上限額 (改正前)	<参考> 現在の入園料金 (ピークシーズン)
20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生（中等教育学校の後期課程に在学する者を含む。以下同じ。）を除く。）	1人につき 2,000円	1人につき 1,010円	1人につき 1,000円
学生 高校生 20歳未満の者（小学生（義務教育学校の前期課程に在学する者を含む。以下同じ。）及び中学生（義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程に在学する者を含む。以下同じ。）を除く。） 65歳以上の者	同 1,500円	同 760円	（学生・高校生・ 20歳未満の者） 同 600円 （65歳以上の者） 同 700円

小学生及び中学生	同 1,000円	同 500円	同 400円
----------	-------------	-----------	-----------

(2) 会議室利用料金

区分	利用料金の 上限額 (改正後)	利用料金の 上限額 (改正前)	<参考> 現在の利用料金
会議室	1時間につき 500円	1時間につき 110円	1時間につき 110円

(3) 駐車場利用料金

区分	利用料金の 上限額 (改正後)	利用料金の 上限額 (改正前)	<参考> 現在の利用料金
普通自動車	1回につき 1,000円	1回につき 520円	1回につき 500円
大型自動車	同 3,000円	同 1,570円	同 1,520円

3 今後の入園料金設定の考え方

現行契約期間中の入園料金については、改正した条例上限額の範囲内で段階的に値上げしていくこととし、入園者数への影響や収支の改善状況等も踏まえて、事業者と協議の上で実施する。

4 今後のスケジュール（予定）

令和7年11月	条例改正案を提出
令和8年4月	改正条例の施行、変更後の利用料金による運営の開始
令和11年度末	現行契約期間の終了
令和12年度	新たな事業者による運営開始

Ⅲ 「GREEN×EXPO 2027」に向けた取組について

令和9年に本県で開催される2027年国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」について、県は、開催地の自治体として出展を行うこととし、令和6年10月にとりまとめた「神奈川県出展基本構想」に基づき、準備を進めている。

そこで、「GREEN×EXPO 2027」に向けた県出展の準備状況及び県内における機運醸成の取組状況等について報告する。

1 「GREEN×EXPO 2027」の概要

(1) 開催期間

令和9年3月19日から令和9年9月26日まで（192日間）

(2) 開催場所

旧上瀬谷通信施設（横浜市瀬谷区・旭区）

(3) 博覧会区域の面積

約100ha（うち会場区域 約80ha）

(4) 有料来場者数

1,000万人以上（想定）

(5) 開催主体

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

2 「神奈川県出展基本構想」の概要

(1) 出展のテーマ

ア メインテーマ

“Vibrant INOCHI” 一人ひとりの“いのちが輝く”

イ サブテーマ

(ア) 共生社会の実現

(イ) 持続可能な社会づくり

(ウ) 未病（ME-BYO）の改善

(2) 県出展の構成

ア 屋外展示

庭園を中心にテーマを分かりやすくイメージさせる、印象的なシンボル展示を行う。

イ 屋内展示

屋外展示と連動しながら、県が推進する施策をより深く理解してもらえるよう、展示内容や手法を検討する。

ウ 催事

“Vibrant INOCHI” パフォーマンスを制作・上演するほか、県による主催催事、県内市町村やその他主体による催事を企画・実施する。

3 県出展の準備状況（環境農政局）

(1) 「GREEN×EXPO 2027推進本部」の開催

庁内関係機関相互の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的に推進するため、知事を本部長とし、各局長等を構成員とする「GREEN×EXPO 2027推進本部」を開催し、各局の取組状況や県出展、機運醸成の今後の進め方等について共有した。

【開催状況】

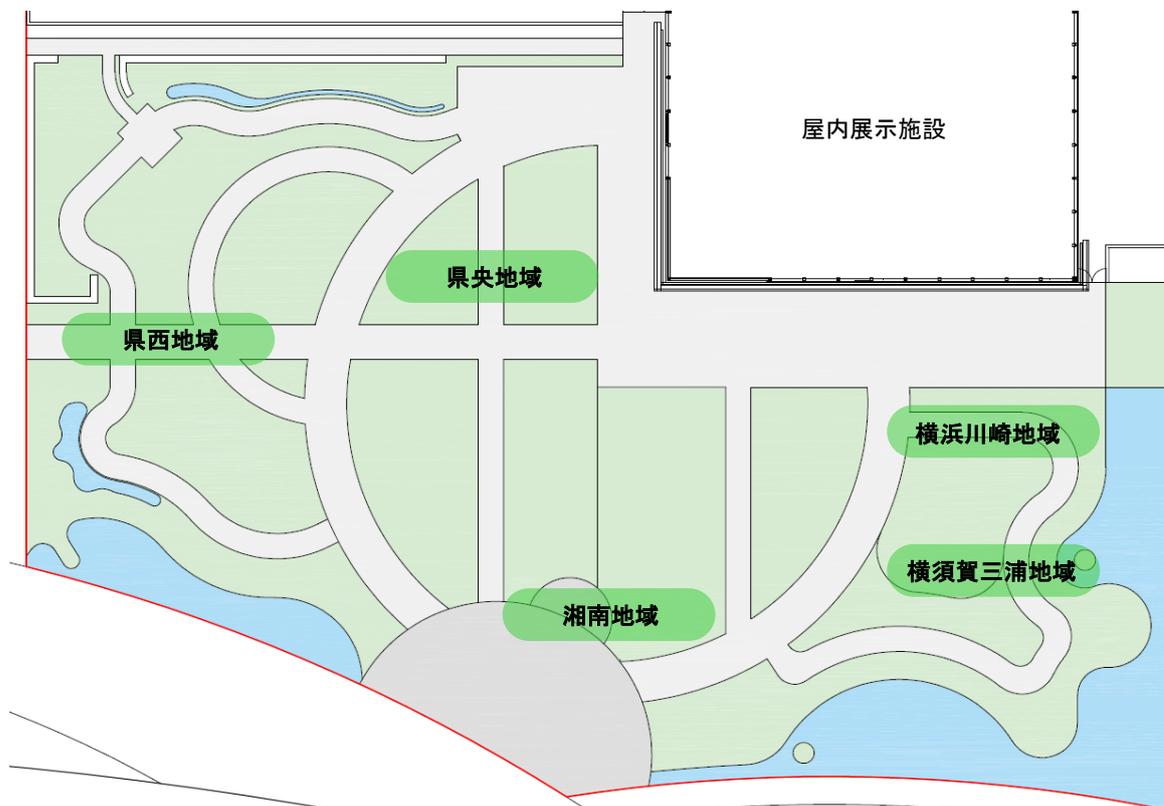
	開催日	内容
第1回推進本部	令和7年6月9日	各局の取組状況等
第2回推進本部	令和7年9月3日	各局の取組状況等

(2) 屋外庭園（レイアウト）

ア 考え方

県内各地域の特色ある花や緑を植栽し、自然環境を再現することで、豊かで美しい神奈川県土を屋外庭園に落とし込む。

イ レイアウト案



(3) 屋内展示施設（外観）

ア 考え方

県産木材を格子状に組み、神奈川の海（波）の柔らかな曲線を表現、足元にはミラー素材による壁面を施し、庭園の緑に溶け込むような軽やかなファサードとする。

イ 外観イメージ



(4) 市町村展示の募集

ア 屋外展示

(ア) 募集期間 令和7年5月1日から令和7年5月23日まで

(イ) 応募状況 県内3自治体から応募あり

イ 屋内展示

(ア) 募集期間 令和7年5月1日から令和7年6月27日まで

(イ) 応募状況 県内25自治体から応募あり

(5) 今後のスケジュール（予定）

令和7年9月～12月 展示内容の検討

令和8年1月～3月 基本設計、基盤整備

4月頃～ 屋外庭園の造園、屋内展示施設の建築工事

令和9年1月頃～ 屋外庭園の植栽、屋内展示の設置・施工

3月19日 開幕

4 機運醸成の主な取組（環境農政局）

(1) 「GREEN×EXPO 2027応援団」による機運醸成

本県にゆかりのある著名人や団体を中心に「GREEN×EXPO 2027応援団」を結成し、イベント等でPRを実施。(令和7年9月現在 24名、9団体)

氏名、団体名	実施日	イベント名等
結成時	令和6年9月制作	応援メッセージ動画
田崎 日加理	令和6年10月10日	パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会神奈川県祝賀会
金子 桃 ほか2名	令和6年12月15日	全国高校生花いけバトル 神奈川大会 2024
かながわ緑の大使	令和7年5月3日	県庁本庁舎一般公開
白井 貴子	令和7年5月4日	横浜フラワー&ガーデン フェスティバル2025
熊本 マリ	令和7年5月25日	かながわパフォマ開放区 ピアノコンサート
八田 幸子	令和7年6月21日	全国高校生花いけバトル 神奈川大会 2025 練習会
石塚 英彦	令和7年9月14日	全国高校生花いけバトル 神奈川大会 2025
小林 涼子	令和7年9月14日	ベトナムフェスタ in 神奈川 2025

(2) 県主催（共催）イベント、県有施設等による機運醸成

ア 県主催（共催）イベント等

イベント名等	実施日	内容
県庁本庁舎一般公開	令和6年5月3日	PRブース
	令和7年5月3日	スタンプラリー等
緑の祭典2024 in さがみはら	令和6年5月26日	PRブース
ベトナムフェスタ in 神奈川 2024	令和6年9月7日 8日	PRブース
神奈川県花き展覧会	令和6年11月23日 24日	PRブース フォトスポット
東京2025デフリンピック1年前 イベント in かながわ	令和6年11月30日	PRブース
農業技術センター施設公開	令和7年4月19日	PRブース スタンプラリー等
関東甲信越1都9県議会議長会	令和7年8月26日	PRブース

イ 県有施設を活用した機運醸成

施設名	内容
花菜ガーデン	フォトスポット設置
大船フラワーセンター	フォトスポット設置、花壇植付け
おだわら諏訪の原公園	花壇植付け (R7)
恩賜箱根公園	初夏のバラ展 (R7)
相模原公園	寄せ植え講座 (R6)
四季の森公園	壁面花壇植付け (R6、R7)
茅ヶ崎里山公園	寄せ植えワークショップ (R6)、 園内花壇植付け (R7)
津久井湖城山公園	寄せ植え体験、フォトスポット花壇 植付け (R7)
辻堂海浜公園	寄せ植え体験、園内花壇植付け (R7)
秦野戸川公園	チューリップ植付け (R6)
保土ヶ谷公園	園内花壇たねダンゴ植付け (R7)
三ツ池公園	園内花壇植付け (R7)
神奈川県民センター	カウントダウンボード設置
あーすぷらざほか35か所	GREEN×EXPO 2027のぼり旗設置

ウ 子どもを対象とした花育教室

実施場所	実施日	内容
県庁(庁舎公開)	令和6年5月3日	フラワーアレンジメント
	令和7年5月3日	
茅ヶ崎里山公園	今年6年5月19日	たねダンゴ教室
生田緑地	令和6年12月14日	クリスマスリース作り
横浜南部市場	令和6年12月26日	洋花アレンジメント
大和市シリウス	令和7年3月23日	フラワーアレンジメント

(3) 市町村等と連携した機運醸成

イベント名等	実施日	内容
開成町あじさいまつり	令和6年6月15日～16日	ブース出展
	令和7年6月7日～8日	
小田原フラワーガーデン	年8回以上	モスボール づくり
	年2回以上	花壇植栽
ローズフェスタ2025 (綾瀬市)	令和7年5月24日	ブース出展

(4) 多様な主体と連携した機運醸成

ア 全国都市緑化かわさきフェアにおける花壇、モニュメントの出展
(国際園芸博覧会協会、横浜市との共同出展)

- ・ 秋開催 (令和6年10月19日～11月17日：30日間)
- ・ 春開催 (令和7年3月22日～4月13日：23日間)

イ 全国高校生花いけバトル神奈川大会2025～青春輝け！GREEN×EXPO
2027への扉～の開催 (令和7年9月14日)

ウ 「かながわの花展」(サテライト展示)における県内花き生産者団体
によるPR (令和6年10月～令和7年1月、県内11市町村)

エ 県内50団体 (自治会等) の花壇に応援看板を設置

(5) メディアを活用した機運醸成

番組名等	放送 (放映) 日
LIGHT UP KANAGAWA (FMヨコハマ)	令和6年5月9日
	令和7年5月1日
	令和7年9月18日
カナフルTV (TVK)	令和6年11月3日
KANAGAWA Muffin (FMヨコハマ)	令和7年9月6日
デジタルサイネージ等 (ミナカ小田原ほか 22か所) におけるPR動画放映	令和6年6月～ 令和7年6月